

戸越公園 ~ 歴史を語る公園

豊町2丁目にある戸越公園は、江戸時代に旧熊本藩主細川家下屋敷として拝領した後、寛文11年(1671年)に整備された江戸の大名庭園の一部です。

戦後、区に移管され数度の改修を経て、歴史的な情緒や武家屋敷の風情をかもし出しており、区を代表する公園となっています。池を中心とし、渓谷や滝、築山などを配置して、ゆっくりと一周できる回遊式庭園です。樹木は梅、桜、ツツジ、モミジなど季節の花や木が美しい公園として区民に親しまれています。

散歩をする人、子どもと楽しく時間を過ごす人、お年寄りの語らいの場として、また広場では各種行事も催され、区民の憩いの場所になっています。



東品川海上公園

~ 新しく生まれた公園

東品川2丁目にある東品川海上公園は、区民に水やみどりに親しむ憩いの空間を提供しようと平成19年3月31日にオープンした水辺環境を生かした公園です。

園内は桜並木がきれいで、春はもちろん、秋の紅葉も楽しめる新しい公園として親しまれています。



公園に隣接する下水道局東品川ポンプ所の建物の屋上が公園の一部として庭園に整備されており、ボランティアが花壇の植栽と手入れを行っています。



皆さんのお住まいの近くにも、こんなに素晴らしいところがある！

星薬科大学 (荏原2-4-41)

正門をくぐると左右に黄葉した見事なイチョウが出迎えてくれます。中原街道から少し入ったところにあり、都心とは思えない静けさと緑に囲まれキャンパスは勉学には最高の環境です。

キャンパス内には薬用植物園があり、約800種の薬草が栽培されており、一般に公開されていますので是非見学してみたいかたがでしょう。



都立林試の森公園 (小山台2-6)

品川区と目黒区の境にあり、以前の林業試験場が移転後、平成元年に都立公園として生まれ変わりました。

きれいに整備された道ではウォーキングや散歩をする人、休日のひと時を楽しむ家族連れが見られました。

池は紅葉した木々を水面に写し、それをカメラに収める人が見られました。



しながわ中央公園

(西品川1-27・28) 区役所と道路を挟んで向かい合った公園は平成15年4月1日にオープンした新しい公園で、毎年5月には「しながわECOフェスティバル」が開催されています。噴水や流れ、ロックガーデンの広場があり、子ども連れのお母さんたちの姿がよく見られます。

サクラの鮮やかな紅葉が私たちのこんな身近で見られました。



品川区環境情報活動センター 今後のイベント予定

食材を使い切る、食べ残さない ~ 新宿中村屋のシェフが教えるおいしいカレー教室 ~

市販のカレールーを使ったおいしいカレーの作り方教室です。たべもの環境についても学びます。
日時 / 1月24日(土)13時30分~16時
場所 / 荏原文化センター料理講習室
対象 / 小学5年以上・中学生と保護者

厳しい自然の中でイキイキと暮らすペンギン ~ カメラを通して見る ~

南極やニュージーランドの野生のペンギンたちの様子を写真で紹介しながら、人の生活と野生のペンギンとのかわりについて学びます。
日時 / 1月25日(日)14時~16時
場所 / 環境情報活動センター

巨木が語る地球&カメラ教室

~ カメラを通して植物と仲良く ~
世界の巨樹・巨木を撮った写真の紹介とカメラを通して植物と仲良くするためのコツを学びます。
日時 / 2月6日(金)14時~16時
場所 / 品川シアター (区役所内) 他

世界で1冊のアート本(絵本)

参加者がデザインしたカラー作品を重ねて1冊の本にします。
日時 / 2月13日(金)14時~16時
場所 / 環境情報活動センター

フォトジャーナリストの視点で環境を語る ~ 世界の辺境地で見て、考えた '地球といのち'

日時 / 2月26日(木)14時~16時
場所 / 品川シアター (区役所内)

講座の名称はいずれも仮称です。応募方法等については「広報しながわ」、品川区環境情報活動センターのホームページにて後日掲載します。

しながわECOだより2008年度Vol.3

発行: 品川区環境清掃事業部
編集: 特定非営利活動法人 エコタウンしながわ
発行日: 平成20年12月17日
住所: 〒140-8715 品川区広町2-1-36 品川区環境情報活動センター内
TEL/FAX: 03-5742-6533
E-mail: center@shinagawa-eco.jp
HP: http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています

しながわECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2008年度 Vol.3

環境記者活躍中

第7回環境記者情報交換会開催

平成20年10月3日、第7回環境記者情報交換会が8名の環境記者の出席のもとで行われました。環境記者の皆さんの環境に対する関心や取り組みは様々で、お互い新鮮な話に耳を傾けました。

ビルの建築ラッシュで自然が失われてゆく中、建設説明会で緑化を取り入れるよう要望した。

屋上菜園でいろいろな野菜を作っている。今年は、小玉だが皮が薄くて甘いスイカができた。同時に断熱効果抜群で、屋上雨水も100%利用している。



目黒川を定点観察しているが、水の色が雨、気温、生活排水などで変化する。区の浄化活動のお陰で以前に比べるときれいになっているが。

朝の街並みを眺めると並木がきれいだが、いろいろなものが落ちていた。公共の場所を綺麗にしたいという気持ちでタバコの吸殻や空缶を拾っている。

五穀米の種まきから収穫までを行い、苦労もあったが良い経験になった。今日都会ではなかなか見られないアワやキビの紹介があった。

環境活動さまざま

子供の出産を機に食の安全性や地球環境に注目するようになった。若い層がもっと身近な環境問題に関心を高められるように情報発信をしてゆきたい。

自分もごみを拾っている。また町会でも落ち葉やごみ拾いを行っている。星薬科大学の薬草園は自由に見学でき、季節感を味わうことができる。



夏休みには皆さんの協力で「打ち水会」を行ったが、1日だけではなく習慣化して欲しい。秋には区内で環境に関する様々なイベントがあり、参加、あるいは注目しましょう。

環境記者、ボランティアとしても活躍中

環境記者の真壁美枝子さんが、南大井2丁目のマンション6棟の皆さんと力を合わせて行っている環境整備活動についてご紹介します。

「花交差点の仲間たち」(ボランティア名)は花を介して地域のいろいろな世代が交差し、子供たちの心に残る花のある街をつくり、こころ豊かに(心の環境整備)安全で住みやすい環境にすることを目的に活動しています。



歩道花壇の植替え

11月上旬、ボランティア52名で秋から春先までの花を歩道花壇に植替えました。今回はマンション毎に花選定したこともあり、それぞれの特色が出ています。「わが花園が一番!」と自慢話に華が咲く、楽しみ方もいろいろな大森海岸南大井2丁目花ロードです。



行き交う人たちに楽しんでいただけるよう日々の手入れを行っています。

花の種類

・ラベンダー(「花交差点の仲間たち」のシンボル花です)
毎年ラベンダーの生花やポプリを使用してクラフト作りを行っています。
・シラメン、デージー、フリムラ、パンジー、クリスマスパレード、ストック、セージ、マリゴールド、コリウス



パンジー、シラメン、ストック、クリスマスパレード

マリゴールド、セージ、コリウス

環境学習講座

さき布から「ぞうり」を作ろう

9月23日、28日の2日間(計5時間)「さき布からぞうりを作ろう」(講師:布ぞうりサークルしながわ宮嶋氏ほか)が開催されました。毎回定員の数倍の申し込みのある人気講座で、本年度も今回が2回目です。

まずは基本を教わります。みなさん初めての方で最初のヒモと布を合わせる作業が一番難しいようですが、そこを終え



ると半分できてしまいます。指導員に聞いたり、隣同士が助け合いながら作業は進みます。

この講座は2日間の講座で、2回目に集まった時は友達同士で集まった会の様

でした。ついに完成です。白いぞうりはタオル生地で作ったぞうりのため生地が厚く、肌触りも良いようです。生地の違いで出来具合も変わってくるようです。



鳥から見た環境変化 9月21日(日) / 講師:自然観察大学副学長 唐沢孝一氏

都市におけるスズメ、ツバメ、カラスの生態についての講義がありました。

スズメは地味な野鳥で、民家の周辺に棲んでいます。最近では都市ビルに居を移す傾向にあります。

ツバメの棲みやすいところは水と緑の多いところ(食べ物と巣の材料がある)、安全な場所(人がいる、天敵であるカラスがいらないところはツバメにとって安全)



カラスは大変利口なことで知られています。クリーニング店でもらうルガ-で巣を作る、車のタイヤで食べ物のカミの硬い殻を割る、食料を保存する、攻撃できそうな人間を見極める等々です。

水と緑に恵まれ、活気ある商店街があり、益鳥であるツバメを残してこそ未来があると思います。ツバメやスズメが棲めないところには人も住めないのです。笑いの絶えない楽しい講義が終了しました。

環境紙芝居~ちきゅうがたいへんだ!&おもしろミニ実験~ 11月3日(月)

温暖化による地球環境破壊は人類と生物の生存を脅かす近未来かもしれません。かけがえのないこの地球のためにできることは何でしょうか。温暖化の現状を学び、ミニ実験を通して身近な対策を子どもたちは親と一緒に考えました。



温暖化の影響で、2050年頃までに自然界ではキリマンジャロ山頂の雪が消えたり、100万種以上の陸上生物が絶滅するなどの大きな変化が予測されています。しかし人間の努力と科学の力により、地球環境を変えていけるのではないのでしょうか。

電球で省エネ比較実験をしました。白熱電球から蛍光

電球にするだけで電気の消費量は5分の1、LEDでは6分の1になります。少しの電気で同じ明るさがとれるのです。温暖化問題を忘れることなく、自分にできることを続けてゆく事で未来はきっと変えられます。



カードゲームで知る自然の不思議体験 11月16日(日) / 講師:環境カウンセラー 漆原敏之氏

鳥や昆虫の親子(成虫と幼虫など)、分かりますか?

鳥の足やくちばしの形には特徴がありますが、これらは生きてゆくために与えられたものです。環境情報活動センターにてほしい想像上の鳥を描いてみました。



食物連鎖についての勉強をしました。カードには番号がついており、緑

色のカードは1番休、2番休、3番休、4番休、5番休です。

さてこの5枚のカードはどんな関係にあるでしょう。1 2 ... 5番の順に餌になるので、それぞれの生き物は彼らの餌がないと生きていくことができません。地球上

の生き物全部をこの関係でピラミッドの形に置いたとすると、頂点に来るのは、そうです人間です。その一部が欠けたら人間は地球上で生きていけなくなるかもしれません。実は人間を支えているのは多くの生き物で、それらがつながりを持って生きています。



野菊の苔玉作り

10月2日「野菊の苔玉づくり」(講師:園芸研究家 伊藤金美氏)が開催されました。今回使用する草花は、ツバキ、サユイ、ササ、アズリ、ジ、菊、ササガの5種です。

まず寄せ植えの基本的なポイントとして、草花の特徴、用土、日当たり、配置の仕方、植物の性質の近いもので組み合わせるなどの説明があり、続いて実習に入ります。

植物のバランス、芯の向きをうまく考えて土を少しずつ落とし、好みの形に配置します。形が決まったら針金と紐で固定します。周りを土で固め、最後に苔を下地にしっかりと密着させて、紐をぐるぐる巻いたらできあがりです。

さあ、できあがりしました。それぞれはどれも地味な草花ですが、とてもエレガントなオブジェに変身しました! かつての日本ではどこにも見られた野辺の花が、この頃はめずらしくなりつつありますね。



稲刈りをしました お餅となって食卓に並びます!

10月15日(水)区役所屋上の田んぼで、二葉幼稚園児が稲刈りを行いました。5月21日に田植えをしてから約5ヶ月で穂もたわわに稲が実りました。朝方の雨もすっかり上がり、気持ちのよい秋の太陽が園児の稲刈りを応援してくれているようで、参加した18人は元気一杯、稲刈りの前からみんなワクワク気分です。



ボランティアの指導員からお米と稲刈りについての説明を聞いた後、一人ひとり指導員と一緒に稲を刈ります。園児の手にはかなり手ごたえがありそうですが、みんな一生懸命です。



18人全員が一回り終えたところで稲はまだ残っています。僕も私ももう一度稲刈りしたいとばかり列を作っています。ここからは刈った稲を干す人と、もう一度稲刈りする人とに別れます。稲はこんなふうにして干すのかをみんなは知りました。稲を担ぐ様子もかわいいですね。



園児の元気な声が飛び交い、たのしい稲刈りが無事に終了しました。収穫した米はもち米で、この後お餅となってみんなの食卓にのびります。

子どもたちが参加する区役所屋上の田んぼでの米作りは平成18年から毎年行っており、今回で3回目です。5月21日の田植えから始まり、稲刈りまでを学んだ園児たちは、都会ではなかなかできない貴重な経験をしたと思います。

コスモスの刈り取りと菜の花の種まきをしました 春は一面菜の花畑に!

11月9日(日)、「しながわ花海道」(勝島運河土手)で約500人が参加してコスモスの刈り取りと菜の花の種まきが行われました。

6月15日の種まきから約5ヶ月、8月中ごろから花が咲き始め、これまで白、ピンク、紫のきれいなコスモスが私たちの目を楽しませてくれました。



「しながわ花海道」は平成14年に立会川商店街と鮫洲商店街が中心になって「プロジェクト」を設立し、管理運営しているものです。ここ勝島運河の土手は品川区の了解を得て、地域住民や商店街のみなさんが秋のコスモス、春の菜の花を



中心に自主的に育てているもので、コスモスと菜の花の育成は毎年の恒例行事になっています。今年は油の採れる菜の花の種をまきました。



3月には一面菜の花畑が広がり、6月頃には菜種から採取する油を使ったおいしい料理も楽しみですね。



「しながわ花海道」へ是非一度足をお運び下さい。

最寄り駅:京浜急行 立会川駅、鮫洲駅
品川区勝島運河高潮護岸の土手周囲約2km (2008年3月撮影)

書評コーナー



『環境がわかる絵本 (改訂版)』
文:佐伯平二
イラスト:長崎訓子
(株)山と溪谷社
(本体1,400円+税)



地球サミット、資源の枯渇や新エネルギーといったグローバルな問題から、環境問題の実態、そして私たちの暮らしと環境といった身近な問題についてまで、簡潔な説明がなされています。なお、本書は子ども向けの絵本ではありません。

説明は短いものですが、要点をしっかりと伝えてくれており、この本を1冊読めば環境問題の概要をつかむことができるのではないのでしょうか。



『海から見た地球温暖化』
(異常気象、気候変動の現場に行く)
JAMSTEC「Blue Earth」
(独立行政法人 海洋研究開発機構)
編集委員会 著
(株)光文社
(本体1,600円+税)

「地球温暖化は後戻りできない気候変化で、現在北極海で進行している“海の温暖化”と海水の減少も後戻りできない」といったショッキングな内容の書き出しで始まっている。

白い氷は太陽光をよく反射するが、青色の海水はそれをよく吸収するため北極海の海水の減少は温暖化を加速させる。また北極の氷の減少についてはよく話題になるが、南半球の気候変動は緩やかだ。これは南極の氷は厚いため、氷が多少溶けても太陽光の反射の仕方は変わらない、これが南北両極の気候変動の違いと言う。

私たちの日常活動でのちょっとした気遣いが、温暖化にブレーキを掛けることになるのでしょうか。